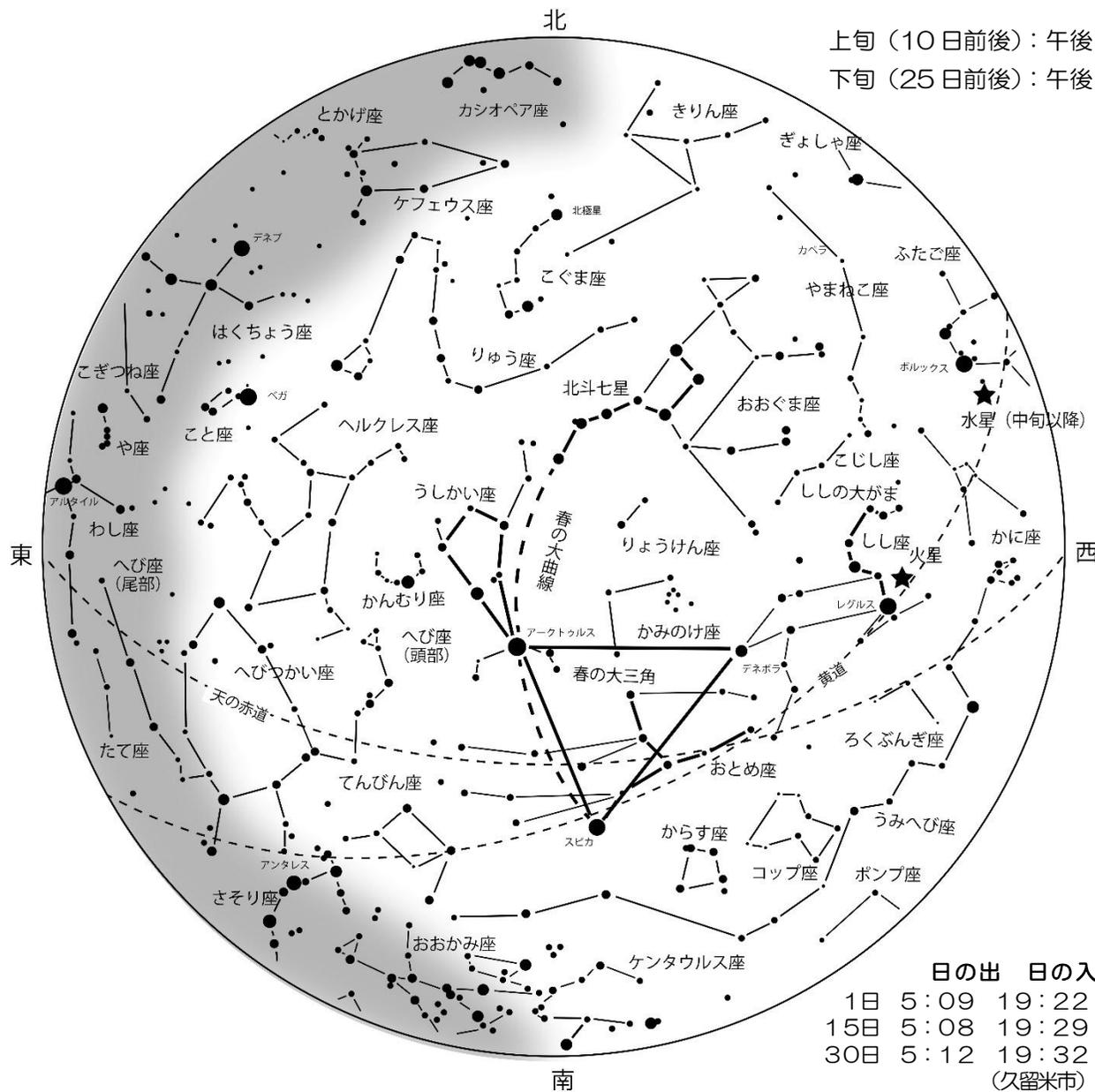


令和7年 6月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬（10日前後）：午後9時ごろ
下旬（25日前後）：午後8時ごろ

★6月の星空案内

今月は梅雨で曇りや雨の日が多くなり、星空を見ることが出来る機会が少なくなるかもしれませんが、星空ではまだまだ春の星座たちが輝いています。春の星座たちを見つけるには、まず北の空で7つの星を結んでできる「スプーン」のような星の並び「北斗七星」を見つけましょう。北斗七星をスプーンに見立てた時、持ち手の部分のカーブを南へのはしていくと、オレンジ色に輝くうしかい座の1等星アルクトゥルスや白く輝くおとめ座の1等星スピカを見つけることができます。うしかい座は「ネクタイ」のような星の並び、おとめ座は「アルファベットのYの字」のような星の並びが目印です。北斗七星からアルクトゥルスを通り、スピカまでのばしたカーブを『春の大曲線』といいます。また、アルクトゥルスとスピカ、そして2等星のデネボラを結んでできる三角形を『春の大三角』といいます。デネボラには「ししのしっぽ」という意味があり、ここにはしし座を見つけることができます。1等星レグルスからのびる「？マーク」を裏返したような星の並び、『ししの大がま』を目印にして、しし座を見つけるとよいでしょう。

曇りや雨の日が多い6月なので、なかなか美しい星空に出会うことができませんが、梅雨の晴れ間には『春の大曲線』と『春の大三角』を目印に春の星座たちを探してみてください。

【惑星の見え方】（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（-0.4~-2.2等）	：おうし座→かに座	観測に適さない。
☆金星（-4.3等前後）	：うお座→おうし座	日の出前、東の空で輝く。
☆火星（1.2~1.5等）	：しし座	宵の頃、西の空に輝く。
木星（-2.0等前後）	：おうし座付近	観測に適さない。
☆土星（1.1等前後）	：うお座付近	日の出前、南東の空で輝く。

注目の天文現象(6月) ~しし座の1等星と火星の接近を観察しよう~

6月上旬から下旬にかけて、夕方から宵の西の空に見える火星が、しし座の1等星レグルスに接近します。最接近は、6月17日頃で、1度未満まで近づきます。腕を伸ばした時の指の幅がおよそ2度なので、その半分以下ということはいかに近いかが想像できますね。

1.4等級まで暗くなった火星ですが、この明るさはちょうどレグルスと同程度なので、よく似た明るさの2天体の共演となります。また、火星は赤っぽく、レグルスは青白く輝いているので、色の対比に注目して、17日前後に、ぜひこの光景を楽しんでみてはいかがでしょうか。

日の出	日の入
1日 5:09	19:22
15日 5:08	19:29
30日 5:12	19:32

(久留米市)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
1	日	金星が西方最大離角	19	木	☾ 下弦 (06:53)
3	火	☽ 上弦 (12:41)	21	土	夏至 (久留米市の 日の出 05:09 日の入り 19:31)
11	水	☉ 満月 (16:44)	25	水	● 新月 (19:32)